

# 調査報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成20年 9月19日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 15時 00分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム たんぼぼ ( 熊本県 )
評価調査員の氏名	氏 名 淵上 一光 氏 名 下田 政信
事業所側対応者	職 名 代表者 氏 名 堀 信利 ヒアリングを行った職員数 ( 2 )人

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目につけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 9月 26

## 【評価実施概要】

事業所番号	4 3 7 2 4 0 0 9 3 9
法人名	有限会社 ホリ
事業所名	グループホーム たんぼぼ
所在地	熊本県玉名郡南関町大字四ツ原1338 (電 話) 0968-53-8881
評価機関名	特定非営利活動法人PRENET21
所在地	熊本市八幡9-6-51
訪問調査日	平成 20年 9月 19日

## 【情報提供票より】(20年 8月31日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 6月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	13 人
利用定員数計	18 人
常勤 13人, 非常勤 0人, 常勤換算 13人	

### (2) 建物概要

建物形態	併設 / (単独)	(新築) / 改築
建物構造	木造造り	
	1 階建ての	階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	16,500 円	
敷 金	有( 円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		780 円	

### (4) 利用者の概要( 8月31日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	2 名		
年齢	平均 84.78 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	大村医科歯科診療所、福島整形外科、医療法人親仁会 さかき診療所
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、南関町の中でも南部にあり、すぐ南隣りに玉名市という位置関係にあります。高台でしかも広大な敷地の中に、光を十分に取り入れた利用者本位のゆったりとした安全・安心の生活空間が実現されていました。入所時には車椅子だったという利用者が、今では自立されていたり、また介護度が下がった利用者がおられたりと驚きの事実を伺い、代表者また職員全員の介護事業に取り組む目標の高さに感心させられました。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	記録等の個人情報の取扱いについては、事業所を30分以上留守にする場合は、収納棚に鍵を掛けるようにしている。またミーティング等で個人情報に関する場合は、利用者に悟られないように暗号を用いたりして行なっている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価の意義を考え、全職員忌たんのない意見を出し合い、改善に向けた取り組みを行なっている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	運営推進会議自体は十分定着しており、その機能も発揮されていると思います。会議が形骸化しないよう、議題内容や活発な意見交換が行なわれるように、工夫・努力をお願いしたいと思います。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月1回「個人の状況報告書」を細かく作成し、家族のもとへ送付している。その際、意見や苦情そして不安も汲み上げるようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	たんぼぼ杯ゲートボール大会の開催等を通じ、地域住民の方々との交流は深まっていると思います。日常的に野菜や果物の差し入れがあるなど地域密着が進んでいることが感じられます。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との関わり合いの中で、その人らしく暮らし続けられることを支えるための事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	行動の指針としての理念の実践をより確実なものにする為に朝礼やミーティング時に唱和を行ない、全職員の意識の高揚、また統一に注力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	たんぼぼ杯ゲートボール大会を主催している。また、地域の敬老会やグランドゴルフ等にも参加している。利用者と地元の人々との交流を積極的に進めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を実施する意義を理解しており、ミーティングの中で話し合い、改善するようにしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の家族、民生委員、町職員、老人会会長などの参加のもと、2ヶ月に1回、定期的実施している。		運営推進会議の機能を十分に発揮していると思われる。さらに活性化する為に他のメンバーに参加を呼びかけること、会議内容の充実に取り組んで欲しい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	些細なことでも足を運び、顔の見える距離で相談を行ってきた結果、町との連携もいい方向になりつつある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の担当者を決めており、毎月請求書を発送する際、「個人の状況報告書」を細かく作成し、事業所の「たんぼぼ便り」と一緒に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱」や第三者苦情機関先のポスターを掲示している。また「状況報告書」の中にも家族の意見をくみ上げられるように配慮しており、それらを運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	担当者は決めているが、万一の場合に備えて全員が馴染みの関係を作る努力を日頃から行っている。また2ユニットあるが、それぞれの職員もお互いの利用者には必ず挨拶するようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、毎月1回の全体ミーティング時に行っており、内容は職員の要望を取り入れるようにしている。また非番参加者には手当を支給するようにしている。		職員を育てる取り組みとして、情意考課者を用いてスキルアップを図っている。今後、外部研修、外部専門家の講習を受ける機会を増すことも必要だと思う。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、グループホーム連絡会玉名支部会に2ヶ月に1回出席している。内容により、管理者・ケアマネジャー・職員の誰かが出席するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人・家族・紹介者に見学して頂き、事業所の雰囲気を感じ取ってもらった上でのサービス利用を勧めるようにしている。</p>		<p>紹介者以外の場合、インテーク面接を行ったり、また体験利用等の方法を取り入れることもお互いの為にも必要である。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>体操をしたり、食事の準備また下膳等々可能な限り接点を持ち、支えある関係づくりを築くようにしている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>出来る限り利用者一人ひとりの思いや意向をくみ取れるように努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族の思いや要望に職員が収集したアセスメントを加味し、管理者が確認後、介護専門員が介護計画を作成するようにしている。</p>		<p>本人・家族の思いや意向のより精度の高い聞き取り手法の研究、また介護計画への看護師・医師の意見が反映がなされる様になればと思います。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>一般的には6ヶ月ごとに評価・再アセスメントを行い、介護計画の作成を行っている。しかしながら状況が変化した場合は、随時介護計画の見直しを行い、家族への説明と同意を得ている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間医療体制が確立している。夜中でも医師の往診が受けられ、その指示で救急車を呼んだり、病院に移送したりできる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所以前からかかりつけ医がある場合はそこに、また、ない場合2つの医療機関から決めてもらっている。さらに、定期的な往診や健康診断も実施している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在までの所では、事業所での看取りは一件もない。緊急の場合は、救急搬送を行なうようにしている。		年々利用者の年齢も高くなり、職員が安心してサービスに専念できる為にも、マニュアル等の整備が急務と思われる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りを傷つけないよう言葉かけや対応の勉強会を行なっている。また、プライバシーの保護については、事務所を30分以上離れる場合は、鍵を掛けるようにしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いや意向を最優先に取り上げ一人ひとりのペースを大切に考えた支援を心掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物や調理準備、下膳、食器洗い等々利用者の能力に合わせて支援している。また夏場等は食欲不振を補う為にも好物を取り入れた食事メニューとしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には隔日入浴となっている。しかし、体調不穩・拒否等々があり、利用者のペースに合わせて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活の中に、役割りを設けたり、経験を活かして野菜を栽培したり、また買い物や外出の支援も行なっている。		今後の準備として楽しみごとや気晴らしの支援として晩酌等を考えてみるのも必要だと思う。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は屋外に出て散歩をしたり、また土に触れる機会をある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ防犯の為、玄関の施錠を行なっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、防災訓練を行なっている。うち1回は夜間を想定した訓練となっている。また消火器の実演訓練も行なっており、近隣の会社からは緊急の場合の支援も受けられる。		1つの会社からは支援は受けられるが、今後近所の人々の協力が得られるような体制作りが大事である。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量や栄養バランスまた水分量については一人ひとりの状態に応じて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光を考えたのびのびとゆったりスペースに仕上げられており、思い出の写真等が貼ってあったり、季節の花が生けてあったりと居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドと整理ダンスは事業所備え付けの統一品ですが、使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、生活するのは構わない。		



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームたんぽぽ
(ユニット名)	東棟
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名郡南関町四ツ原1338番地
記入者名 (管理者)	齋木 久美子
記入日	平成20年9月1日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念(2)に事業所独自の理念を掲げている	家族の安心と信頼を受け地域との関わりを持っていく中で利用者様をしっかり支えていく為の事業所の意識づくりを行っていく
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時やミーティング時に唱和し、意識の統一を図る事に努めている	理解し、実践する事を職員全員が認識日々努力していきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居時の説明の中や会議の中で説明は行っており、関係機関の方々へは浸透している。地域住民の方々への浸透は理解されておりません。	地域住民の中への入り込んだ活動が出来てないのでこれから少しでも知っていただく努力をしていく。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	気軽に会話も出来ており近所の方より花や野菜等頂いています。	遠くに出かけるのではなく、近くで散歩や買い物をする事により「挨拶より知っていただく」事に心がけて入る
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のボランティアの申し出もあって、年に何回か訪問がっております。孤立することなく地域との交流の場へも参加させてもらっています(グランドゴルフ)	特に子供たちの訪問には喜ばれています。大人だけでなくいろんな世代の方々が訪問して頂くことを考えていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護スタッフ不足が続いており外部への働きかけもおこなっておりますが現状ではもう少し取り組みたいと考えています。		地域住民の中への入り込んだ活動が出来てないのでこれから少しでも知っていただく努力をしていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月1回のスタッフ勉強会の中で又個別面談の中で外部よりの意見も頂きサービスの向上に努めている		当たり前の事が自然に出来るようにお互いに気付いた時点で言い合えるような職場作りをしている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回定期的に開催しておりその間の取り組み利用者の状況などを報告し、外部よりの意見も頂きサービスの向上に努めている。		会議の中での情報交換が外部からも多く出るような会議の場になるような流れ作りをしています。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	徐々に運営推進会議以外にも連携がとれる状況になっています。		些細なことでも足を運んで市町村と相談し合いをおこなっています。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関しての認識はあるものの、自分達の周りには対象者もいなく活用できることもなく、再度理解の必要も有りと考えます。		制度の活用や相談にいつでも応じていけるよう、書面や掲示にての通達を考えています。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングの場で行っています。		見たり聞いたりした時に、必要に応じて検討していく時間を作り、説明を重ねている。特に言葉使いに対して。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書にのっとり、適切に質問、疑問に答えいき納得を図っています。</p>		<p>現状を維持し、必要により改善してトラブル等の防止に努めたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>時間内で常に現場に耳を傾け利用者との会話を、聞く中で時間を設けて実践している。</p>		<p>利用者様の言葉に誠意を持って勤務につける環境づくりを目指しています。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月請求書を送る時に「個人の状況報告書」「たんぼぼ便り」で報告し、来所時に必ず会話を行うようしています。</p>		<p>信頼を今以上に頂ける様に全員がその時々に必要な相談、援助が出来るようにチームワークを図っていききたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に「ご意見箱」や「状況報告の中」にと「評価掲示」を行なっている。</p>		<p>何でも言い合える対等なお付き合いを望んでいます</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体ミーティングの場にて職員よりの意見が出やすい流れと、考課評記入時の意見記入等おこなっている。</p>		<p>職員の代弁者となり又職員本人も考えを提供しやすいミーティング作りを心がけている。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応が出来るよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整につとめている。</p>	<p>基準に沿った人材の確保が出来ている</p>		<p>突発的な事態に対応出来る為の話し合い、調整を行い看護師も含めた中での人材確保を行なっていききたい</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の退職はありましたが、全員が馴染みの関わりを作る努力をしていた為に心配することなく過ぎていきました。</p>		<p>2棟の交流を図りお客様へ不安を抱かせない為の挨拶や声掛けを指導しています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	毎月1回の全体ミーティング時、職員が希望する内容の勉強会を同時に行なっています。	前もって希望のテーマ提出や、5段階考課を行い自己評価を含め個人面談を行なっています。
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	グループホーム連絡会玉名市部会に2ヵ月に1回出席し交流を図っている。	お互いのグループホームとの交流を図り利用者様を安心して外出が出来るように事業所の位置と憩う場のマップ作りを計画している。
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	職員が楽しく働けるよう、職場に入り込んだ対応を行なっている。	必要がある時は早目の相談を行い早目の解決に持っていく時間を作っています
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	自分達より自主的に目標を掲げ勤務もお互いに無理の無い様図っています。	自分たちで作り上げるグループホームを目指し無理な勤務や押し付けをしない事で自主努力を向上させたい。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	しっかりと本人の表情、会話を聴き紹介先よりの事前の情報を受けています。	少しでも多くの情報を取り相談の事で安心を持って頂く様に努めています。
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	しっかりと家族の話を受け入れ、直接ホームを見て頂くことで信頼を受けています。	家族のいろんな事情をしっかり受け止め安心して利用して頂けるように利用後の対応に関してもご相談に応じています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>しっかりとした相談内容を行うことで今必要とされる支援と見極めが来ています。</p>		<p>一番不安に思われている事に対して素早く対応し安心して頂き情報の共有に努めて生きたい。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人、家族、紹介者に見学して頂きホ - ムの雰囲気を知って利用されるようにしております。</p>		<p>相談や見学に来られる際、職員や利用者とのふれあいも感じとって頂けるように全員に促しています。</p>
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>可能な限り接点のある対応をすることでお互いの会話や作業をする中で共に学び感じ取る関係を作りを行っています。</p>		<p>入居者様だけで過ごされる時間を失くし、離れていつも声掛け観察で共に成長を図りたい</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>状況報告とたんぼぼ便りを毎月送っている中で現状を身近に感じて頂きいっしょに見守っています。</p>		<p>現在行っている取り組みを今以上に充実したものにしていき家族と共に考えていけるホームにしたい。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>本人へは家族の想い、家族には本人の想いを、機会ある毎に話題にあげています。</p>		<p>今まで通り正確な情報を告げ、いっしょに相談出来る関係を築きたい。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>今まで住んでおられた、地域の友人や近所の人の面会があっているが、こちらより出かけて行くことはまれである。</p>		<p>本人の影響を考えると馴染みの人、地域への支援も考えるところですが、家族や知人との相談を行い良い方向へ行く様努力をしていきたい。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>入居者に状況に応じ、テーブルの座席・リビングでの座席や一緒にの過ごし方等を考慮してスタッフが関係作りの橋渡しに努めています。又、買い物や外出で友好を深めてもらえればと判断を行い誘い出しをしています。</p>		<p>利用者の状態を把握し、お互いの関係がうまくいこうスタッフの的確な状況判断が出来るよう努めていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても家族とのお付き合いは、事あるたびに話、関係機関との中でも話をもっている。		職員一同気持ちのいい会話がいつでも出来るようマナーの部分でも勉強していきたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の状況と契約時の本人、家族の想い等を受け一人一人の対応を行っている。		対応が素通りしてしまう時もあり、職員の気持ちが相手に伝わるような支援が必要であり、利用者を知ることに努めていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	紹介して頂いた時の情報や、契約時の中で聞き取りや、記録をして頂き把握しております。		入居前は当然であり入居後も本人との話題を重ねることで充実した情報を集めていきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	前もっての情報にプラス入居されての状態等を観察し現状把握を行っている。		職員の観察力を生かし体調管理を行い日常の行動の中で出来ることを生かした対応を行っていく
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の思いや要望、かつ介護職員が収集したアセスメントを管理者が確認し、課題やケアの在り方等総合的に判断し、介護支援専門員がケアプランを作成し、カンファレンスを行い、それぞれの意見やアイデアを介護計画に反映しています		本人・家族の思いや意向をいかに聞き出すかが鍵であり、介護支援専門員の質の向上と、職員の情報収集能力の向上、気付きを積極的に介護計画に反映していきたい。又、ケアプラン作成時に、家族、医師の参加を呼びかけていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居当初2ヵ月は、情報収集を主体に計画の作成情報の把握に努めています。モニタリングを実施し、6ヵ月ごとに評価・再アセスメントを行い、介護計画の作成を行っています。又、状態が変化した場合は、随時、介護計画の見直しを行いながら、家族への説明と同意を得ています。		ご本人の健康・心理上の状況変化に応じて、家族に呼びかけ、一緒にプランの変更作成をいいていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録には、まるごとケアに、日々の様子、ケアの実践・結果、気づきや工夫を24時間対応で記録し、情報を共有しています。又、介護支援経過記録と実践シートの活用により、介護計画のモニタリングと見直しに活かしています		個別記録の書き方は、職員学習にて学んでいるが、職員の個別差が大きく、時々、見直しながら、レベルアップを図っていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間医療との体制が確立しており、家族・利用者がともに安心して、生活されております。夜中でも体調が急変すれば、まず医師へ連絡し、往診いただきその指示で行動しております。病院が必要な場合は、救急車の手配あるいは、職員が直接病院へ移送し、家族が来られるまで、対応しています。		家族・利用者の皆様が、いかにしたら安心されるのかを行動の基準として、全職員は対応していきたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員の方やボランティアの協力は頂いており又、消防署との関係も作っていますが、他方面の協力は現在十分とは言えない。		関係機関との協働体制を調整して地域資源を十分に活用しながら支援を行っていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	相談に来られた時の本人・家族の状況を知り、その上で適当でない場合、他のサービスを説明しています。		必要に応じ本人・家族を主にすすめていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じ訪問し対応していますが、具体化に協働した事例は、未だありません。		今後、地域包括支援センターとは、入居時の情報収集、入居後の権利擁護や総合的かつ長期的なマネジメント等について話し合いを持ち、相談や助言を受けていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望により、かかりつけ医を設け、二つの医療機関から定期的な往診や健康診断等を実施しており、本人、事業所、かかりつけ医のより良い関係により、家族も安心感を得ています。		ある程度の医療知識を持ち、対等に質問や返事が出来るような関係を持ちたい。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	4～5の方が診察及び相談を受けられておられます。又、今後も診断や治療を受けられる、体制作りができております。		職員を同席させる事と、利用者の必要とする受信ができるよう、支援していきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	自業所には現在看護師が配置されていません。2つの医療機関による定期往診が24時間対応となっています。日常の健康管理や医療管理に活用出来る体制になっています。		早期の採用に努めております。その中で日常の健康管理や医療管理に努めていきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関との連携が出来ており、入院時の対応や早期退院に向けた情報交換や相談が出来ています。入院時の面会を頻回に行うことで、利用者の状態把握や関係者とのよりの確な情報交換に努めています。		医療機関・家族との連携を図りよりいっそうの信頼関係を築き、努めて入院期間を短縮して可能な限り終末ケアまで継続出来るようにしていきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に説明は行っておりますが、必要時はその都度改めて相談を行っております。		いつでも対応出来るように、本人・家族等やかかりつけ医との話し合いを持ち、本人・家族の要望に対して、不安なく対応できるように職員と意識付けを行っていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「グループホームにおけるおける医療の有り方」としてかかりつけ医の協力を得たり、本人・家族への説明行なっています。又、必要があればチームとして取り組んでいきたいと思えます。		重度化や終末期ケアの経験がない職員が多く、理解度や意識は異なります。いつでも対応できるように、管理者を中心に、検討や準備を行い、チームとしての支援体制を確立していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	認知症の方には、環境の変化が最もダメージ的影響が大きいと、いう認識を持って入居時や移住の際に本人・家族へ十分な説明をおこなっています。住み替えの希望がある場合は、関係者と十分な話し合いや情報交換を行いながら、入居や退去時期を検討しています。		住み替えによるダメージを経験しており、今迄以上に、環境の変化が与えるダメージの理解が出来るように、関係者間で十分な花あい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会話や記録や申し送り等含めて朝礼の場所の移動、整理整頓、職員指導等を実施しています。又、言葉掛けの勉強会も行ないました。	ミーティングや事ある毎に日常の中にプライバシーの保護の必要性を問う時間を作っていきたい
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様に聞くこと、会話の中でその人の性格をよく知って、本人が納得される支援を行なっています。	職員の言葉かけは出来ているが、利用者により意思疎通や表現力も異なるため、個々の能力に合わせた細やかな意思の疎通が図れるように努力していきたい。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いや希望を最優先に取り上げ希望に沿うような暮らしを支援していますが、理解困難な利用者様に対しては、その人らしい生活が出来ているかどうか悩むところです。	利用者様との会話と状態をよく知る努力と気付きで個々のペースを守りながら、希望に沿った援助をしていきたい。
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやおしゃれは、利用者の希望を取り入れながら、(自立に向けた支援をしており、職員の声かけや一部介助により、季節感のある見だしなみを心掛け、又、理容・美容歯、出張理解を利用されています。	家族へは、季節に応じた衣替えを協力して頂きながら、新しい衣類だけではなく、着慣れた衣類の提供でいつでも自分で選んでお洒落が出来る環境でありたい。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物や調理、下膳や食器洗い等と食事への入居者の関わりは多く利用者の生活歴や能力等を考慮しながら、個々の状態に合った作業の提供を行なっており、自分から率先して手伝って頂く場合もあり職員と共に、準備や食事、片付けをしています。	利用者に尋ねて作り方等教えて頂き、共に行動する事を全スタッフが上手に出来る場にしていきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	全員が美味しく食せる味付け又、メニューに嗜好を考え取り入れています。	利用者からの要望を可能な範囲で取り上げられるよう、職員が更に、調理に対して、勉強努力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご本人に合った支援を行なっていますが、徐々に進行が見られ、一人でのトイレの使用が不可な方や排尿コントロールがうまくいかない場合等は状況に応じ対応しています。		自立排泄や自己コントロールが可能なように、食事量とメニュー、水分量を考えています。又、体動かしたりで、薬に頼らない支援が出来ればと思う。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日の入浴が基本ですが、拒否のある方、体調不穏の方、排尿便汚染があらわれる方や又、希望される方等状況に応じ対応をしています。		健康増進と清潔保持のため、必要に応じて気持ちの良い入浴が出来る体制と無理の無い入浴が出来る知識も勉強していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者様の状況は把握できていますが、時として安眠が出来ない場合もあり、その時の対応や翌日の体調に変化が出てきます。		一人一人が気持ちよい休息と安眠が取れるように対応のやり方に誠意をもって取り組むようにしていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活に役割を設け、楽しみとなるものを提供して、畑の野菜作りや草取り、買い物等、の外出を行い気晴らしの支援を行っています。		少しでもホームで張りの有る、自分らしい生活をして頂く為に、その人に合った支援をこれからも行っていきます。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の意見を尊重し、金銭の所持等対応しており、必要な時は買い物に出かけその人の支援を行なっている。」		ご本人の状況に応じて、トラブル事なく、所持出来る関係や体制を作っていきます。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事の中に外出を取り入れ、天気の良い日は屋外にでて、草や木の中を歩き、土にふれる機会も多く行なっています。		閉じこもりを避け、外での活動を増していきたい。特に外の空気や人との会話にふれる機会を増やしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年1回の家族同伴での温泉旅行を行なっています。	感染	安心して出かけられる場所を知り、四季の変化や人に来て、刺激を与えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に説明・相談の上、本人様の気持ちを伝えています。又、必要な時は本人より電話されたり、家族よりの電話の時に知らせています。手紙を書かれる方は現在いらっしゃいません。		本人の気持ちも十分に受け家族の状況も知った上ですすめていきたい。又、保育園生へのハガキも、相談して行っていきたい。
64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来所持のスタッフの笑顔、帰宅時の見送りと居心地良い環境で送って頂く様全員にて努めています。		気持ちのよい挨拶と笑顔が自然に出て、次の来所が気軽にしたいと思われる接遇マナーを図っていきたい。
安全と安心を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	絶対拘束をしないと言うのを基本に考えて実践してもらう説明をおこなっています。		正しい身体拘束をしないという知識の再認識を項目とあけて理解していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵は設けてなく、スタッフ間とおお客様との溝を失くし見守りで行なっています。但し一時的には鍵ではなく棒等を使用してすぐ除いています。		すべての職員が鍵を必要としない介護の認識と対応の仕方をしっかりと、考えていきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	就寝以外はリビングでの生活が主で、見通しも良く玄関からの外出時はセンサーでの音が鳴り、事務所が出入りの際に見届け役となっております。個室へは入る時は、ロック、声掛けでプライバシーを守っています。		常に意識の中にプライバシーをも守り利用者様の数や居場所の確認が備わるようなケアを心がけていきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人に合った対応で、必要時はチェック表を作成したり、上司との相談で事務所預かりにしたりして、家族への相談、報告もしておりトラブルになる事なくいっております。		相手の気持ちに添った保管、管理を意識を同じく関わる事を大切にしていきたい
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	その時々に応じた見守りや支援を行い、前もった予測を行う事で、事故防止を図る事を全体ミーティング時、ヒヤリハット提出時又、その時で指導しています。		予防が第1と言うことで何事にも取り組む姿勢をこれからも考えていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルに沿って行動が出来るように、その時々で対応の説明、見学をしホームの中で覚えてもらっていますが、一部を除き知識不足を感じます		応急手当、初期対応の必要性を勉強会や日常の中で、全員に分かってもらうようにしていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防火訓練を含めて防災会社よりのアドバイスや、消防署よりの協力、指導を受けています。近所の方への協力体制は現在出来ておりません。		今まで通り訓練を実施し、近所の人との協力を得ていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	1ヵ月毎の状況報告書の提出や来所持の会話の中で現状を知って頂く様努めています。		身近な会話が職員全員が家族などと出来、一緒に利用者様の生活を守っていけるようにしたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め気付いた際にははや速やかに情報を共有し対応に結びつけている。	毎日朝礼や、連絡ノートや業務日誌の中で、スタッフ間の共有を行い早めの対応に心がけています。		一人一人に寄り添ったケアを行う事で、変化に早く気付く観察力と対応の仕方をこれからも勉強していきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は主治医の判断、指示の通り各スタッフ行なっております。夜勤のスタッフが、次の日の分を、又、確実に服薬確認しております。		薬に関しての副作用と、本人の動きや様子を見る力をつけていき薬を減らす対応をしていきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	飲食物の工夫や、必要な方への声掛けを行っていますが、排便に対する利用者のこだわりが、今少し理解出来ない点も見えます。		排便コントロールの困難、それによって出てくる個人個人の状況に、対応出来る様にしていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の声掛けや、付き添っての支援は行ってはいますが、自分で出来る方への、確認が完全ではなく、全員が出来ているとはいえない。		自分で出来る方にも正しい支援を行い習慣づけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態や主治医の指示の元、利用者にあった食事量・水分量を提供しています。		利用者の好みや性格を知った上で上手に栄養や水分が取れるように、働きかけていきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	時期をおって、各棟に資料作成を行い読んでもらう。又、県よりの資料の通知や勉強会等で課題としている。(c型肝炎)		自ら清潔を実践し当たり前の事として、業務の中でとらえていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	県よりの通知(ノロウイルス)を知らせました。梅雨時の注意として、目標として掲げる。又、持ち越さない食事作りに気をつけています。		高齢でもあり、生で食べない食事づくり、新鮮な食料の使用をこれからも心掛けていきたい
(2)その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は「たんぼぼの顔」という気持ちで、気軽に安心した出入りを心掛けています。		高台で坂道もありますが、眺めがよく道幅も広くなり徐々に、改善はあり、訪問しやすい場を目指して環境作りをしていきたい
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食道、浴室、トイレ等)は利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	空間もしっかり取れて採光も良い、自然の音はしても不快な騒音はなく、季節感をかんじて頂いています。		ゆったりとした中で寝食を共に楽しく過ごせることが一番であり、あちらこちらに季節感を感じて頂く草花がある対応をしていきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに一人に過ごせるような居場所の工夫をしている。	思い思いのくつろぎ方が出来ています。共用の場の配置の見直し、個室の置物の見直し等、の検討を行い、実施しています		その場の状況で、ソファや椅子の配置や利用者様の居場所を平等な目で見直していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の状況に合わせ希望を聞き、居心地良い居室作りをしています。		本人の意思を尊重し、不安が生じないようにしたい。又、家族との連絡も上手にこれからもしていきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室はポータブルトイレを使用されていたり、パット使用されていると、寝室や衣類に臭いが付く場合もあります。浴室、トイレ、居室、極力開放し風通しに努め又、温度差への配慮もしています。		一人一人の体調に合った対応が可能で気持ちよい換気、空調の配慮に努めたい。
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差を少なく、広いスペースの中で安全に生活をして頂いています。出入口にと、デッキに降りるくらいの段差がある程度になっています。		どこまで安全を考えて、環境作りを行うか悩むところです。現状を生かしスタッフ対応でいきたいと考えます
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の力に合わせて、出来られる事はして頂き、自立して頂くように、声掛けをしたり一部介助にて行っています。		一日の流れに合った動きの中で本人の力が出せる場を見つける工夫をしていきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	冬はルビングを主に暖かくなれば野菜作りや草取りの場が多く設けてあり又、食事をベランダにて外の空気にふれ楽しみました。		ベランダの使用を今以上に多目的に使っていきたい。

## サービスの成果に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	数日に1回程度
		<input type="checkbox"/>	たまに
		<input type="checkbox"/>	ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	大いに増えている
		<input type="checkbox"/>	少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどいない
100		<input type="checkbox"/>	ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
(この欄は、)日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点をきにゆうしてください

自然に囲まれた丘にあり、眺めもよく気持が落ち着く、隣に大工場があり、広場の提供や花見の交流もしており、下方に大きな道路があり民家が並んでいます。四季折々の食事と草花で、心洗われております。(米、味噌、お茶、卵は特に産地直送です)元気な方々が多いので、買い物、定期的な受診で利用者様の気分転換も図っています。また、2ヵ所よりの定期的な往診と医療連携も図れており安心しております。今以上にお客様主体で家族様との協力ご理解をいただく為職員全員のサービス向上に努めていきます。

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
・理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
・サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームたんぽぽ
(ユニット名)	西棟
所在地 (県・市町村名)	熊本県玉名郡南関町四ツ原1338番地
記入者名 (管理者)	齋木 久美子
記入日	平成20年9月3日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念(2)に事業所独自の理念を掲げている	家族の安心と信頼を受け地域との関わりを持っていく中で利用者様をしっかり支えていく為の事業所の意識づくりを行っていく
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時やミーティング時に唱和し、意識の統一を図る事に努めている	理解し、実践する事を職員全員が認識日々努力していきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	入居時の説明の中や会議の中で説明は行っており、関係機関の方々へは浸透している。地域住民の方々への浸透は理解されておりません。	地域住民の中への入り込んだ活動が出来てないのでこれから少しでも知っていただく努力をしていく。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	気軽に会話も出来ており近所の方より花や野菜等頂いています。	遠くに出かけるのではなく、近くで散歩や買い物をする事により「挨拶より知っていただく」事に心がけて入る
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のボランティアの申し出もあって、年に何回か訪問がっております。孤立することなく地域との交流の場へも参加させてもらっています(グランドゴルフ)	特に子供たちの訪問には喜ばれています。大人だけでなくいろんな世代の方々も訪問して頂くことを考えていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	介護スタッフ不足が続いており外部への働きかけもおこなっておりますが現状ではもう少し取り組みたいと考えています。		地域住民の中への入り込んだ活動が出来てないのでこれから少しでも知っていただく努力をしていく。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月1回のスタッフ勉強会の中で又個別面談の中で外部よりの意見も頂きサービスの向上に努めている		当たり前の事が自然に出来るようにお互いに気付いた時点で言い合えるような職場作りをしている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1回定期的に開催しておりその間の取り組み利用者の状況などを報告し、外部よりの意見も頂きサービスの向上に努めている。		会議の中での情報交換が外部からも多く出るような会議の場になるような流れ作りをしています。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	徐々に運営推進会議以外にも連携がとれる状況になっています。		些細なことでも足を運んで市町村と相談し合いをおこなっています。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関しての認識はあるものの、自分達の周りには対象者もいなく活用できることもなく、再度理解の必要も有りと考えます。		制度の活用や相談にいつでも応じていけるよう、書面や掲示にての通達を考えています。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティングの場で行っています。		見たり聞いたりした時に、必要に応じて検討していく時間を作り、説明を重ねている。特に言葉使いに対して。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	重要事項説明書にのっとり、適切に質問、疑問に答えいき納得を図っています。		現状を維持し、必要により改善してトラブル等の防止に努めたい。
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	時間内で常に現場に耳を傾け利用者との会話を、聞く中で時間を設けて実践している。		利用者様の言葉に誠意を持って勤務につける環境づくりを目指しています。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	毎月請求書を送る時に「個人の状況報告書」「たんぼぼ便り」で報告し、来所時に必ず会話を行うようしています。		信頼を今以上に頂ける様に全員がその時々に必要な相談、援助が出来るようにチームワークを図っていきたい。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	玄関に「ご意見箱」や「状況報告の中」にと「評価掲示」を行なっている。		何でも言い合える対等なお付き合いを望んでいます
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	全体ミーティングの場にて職員よりの意見が出やすい流れと、考課評記入時の意見記入等おこなっている。		職員の代弁者となり又職員本人も考えを提供しやすいミーティング作りを心がけている。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応が出来るよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整につとめている。</p>	基準に沿った人材の確保が出来ている		突発的な事態に対応出来る為の話し合い、調整を行い看護師も含めた中での人材確保を行なっていきたい
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	職員の退職はありましたが、全員が馴染みの関わりを作る努力をしていた為に心配することなく過ぎていきました。		2棟の交流を図りお客様へ不安を抱かせない為の挨拶や声掛けを指導しています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月1回の全体ミーティング時、職員が希望する内容の勉強会を同時に行なっています。</p>	<p>前もって希望のテーマ提出や、5段階考課を行い自己評価を含め個人面談を行なっています。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡会玉名市部会に2ヵ月に1回出席し交流を図っている。</p>	<p>お互いのグループホームとの交流を図り利用者様を安心して外出が出来るように事業所の位置と憩う場のマップ作りを計画している。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員が楽しく働けるよう、職場に入り込んだ対応を行なっている。</p>	<p>必要がある時は早目の相談を行い早目の解決に持っていく時間を作っています</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>自分達より自主的に目標を掲げ勤務もお互いに無理の無い様図っています。</p>	<p>自分たちで作り上げるグループホームを目指し無理な勤務や押し付けをしない事で自主努力を向上させたい。</p>
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>しっかりと本人の表情、会話を聴き紹介先よりの事前の情報を受けています。</p>	<p>少しでも多くの情報を取り相談の事で安心を持って頂く様に努めています。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>しっかりと家族の話を受け入れ、直接ホームを見て頂くことで信頼を受けています。</p>	<p>家族のいろんな事情をしっかり受け止め安心して利用して頂けるように利用後の対応に関してもご相談に応じています。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>しっかりとした相談内容を行うことで今必要とされる支援と見極めが来ています。</p>		<p>一番不安に思われている事に対して素早く対応し安心して頂き情報の共有に努めて生きたい。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人、家族、紹介者に見学して頂きホ - ムの雰囲気を知って利用されるようにしております。</p>		<p>相談や見学に来られる際、職員や利用者とのふれあいも感じとって頂けるように全員に促しています。</p>
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>可能な限り接点のある対応をすることでお互いの会話や作業をする中で共に学び感じ取る関係を作りを行っています。</p>		<p>入居者様だけで過ごされる時間を失くし、離れていつも声掛け観察で共に成長を図りたい</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>状況報告とたんぼぼ便りを毎月送っている中で現状を身近に感じて頂きいっしょに見守っています。</p>		<p>現在行っている取り組みを今以上に充実したものにしていき家族と共に考えていけるホームにしたい。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>本人へは家族の想い、家族には本人の想いを、機会有る毎に話題にあげています。</p>		<p>今まで通り正確な情報を告げ、いっしょに相談出来る関係を築きたい。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>今まで住んでおられた、地域の友人や近所の人の面会があっているが、こちらより出かけて行くことはまれである。</p>		<p>本人の影響を考えると馴染みの人、地域への支援も考えるところですが、家族や知人との相談を行い良い方向へ行く様努力をしていきたい。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>入居者に状況に応じ、テーブルの座席・リビングでの座席や一緒にの過ごし方等を考慮してスタッフが関係作りの橋渡しに努めています。又、買い物や外出で友好を深めてもらえればと判断を行い誘い出しをしています。</p>		<p>利用者の状態を把握し、お互いの関係がうまくいこうスタッフの的確な状況判断が出来るよう努めていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスが終了しても家族とお付き合いは、事あるたびに話、関係機関との中でも話をもっている。		職員一同気持ちのいい会話がいつでも出来るようマナーの部分でも勉強していきたい。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の状況と契約時の本人、家族の想い等を受け一人一人の対応を行っている。		対応が素通りしてしまう時もあり、職員の気持ちが相手に伝わるような支援が必要であり、利用者を知ることに努めていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	紹介して頂いた時の情報や、契約時の中で聞き取りや、記録をして頂き把握しております。		入居前は当然であり入居後も本人との話題を重ねることで充実した情報を集めていきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	前もっての情報にプラス入居されての状態等を観察し現状把握を行っている。		職員の観察力を生かし体調管理を行い日常の行動の中で出来ることを生かした対応を行っていく
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の思いや要望、かつ介護職員が収集したアセスメントを管理者が確認し、課題やケアの在り方等総合的に判断し、介護支援専門員がケアプランを作成し、カンファレンスを行い、それぞれの意見やアイデアを介護計画に反映しています		本人・家族の思いや意向をいかに聞き出すかが鍵であり、介護支援専門員の質の向上と、職員の情報収集能力の向上、気付きを積極的に介護計画に反映していきたい。又、ケアプラン作成時に、家族、医師の参加を呼びかけていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居当初2ヵ月は、情報収集を主体に計画の作成情報の把握に努めています。モニタリングを実施し、6ヵ月ごとに評価・再アセスメントを行い、介護計画の作成を行っています。又、状態が変化した場合は、随時、介護計画の見直しを行いながら、家族への説明と同意を得ています。		ご本人の健康・心理上の状況変化に応じて、家族に呼びかけ、一緒にプランの変更作成をいいていきたい



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録には、まるごとケアに、日々の様子、ケアの実践・結果、気づきや工夫を24時間対応で記録し、情報を共有しています。又、介護支援経過記録と実践シートの活用により、介護計画のモニタリングと見直しに活かしています		個別記録の書き方は、職員学習にて学んでいるが、職員の個別差が大きく、時々、見直しながら、レベルアップを図っていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間医療との体制が確立しており、家族・利用者がともに安心して、生活されております。夜中でも体調が急変すれば、まず医師へ連絡し、往診いただきその指示で行動しております。病院が必要な場合は、救急車の手配あるいは、職員が直接病院へ移送し、家族が来られるまで、対応しています。		家族・利用者の皆様が、いかにしたら安心されるのかを行動の基準として、全職員は対応していきたい
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員の方やボランティアの協力は頂いており又、消防署との関係も作っていますが、他方面の協力は現在十分とは言えない。		関係機関との協働体制を調整して地域資源を十分に活用しながら支援を行っていきたい。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	相談に来られた時の本人・家族の状況を知り、その上で適当でない場合、他のサービスを説明しています。		必要に応じ本人・家族を主にすすめていきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じ訪問し対応していますが、具体化に協働した事例は、未だありません。		今後、地域包括支援センターとは、入居時の情報収集、入居後の権利擁護や総合的かつ長期的なマネジメント等について話し合いを持ち、相談や助言を受けていきたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望により、かかりつけ医を設け、二つの医療機関から定期的な往診や健康診断等を実施しており、本人、事業所、かかりつけ医のより良い関係により、家族も安心感を得ています。		ある程度の医療知識を持ち、対等に質問や返事が出来るような関係を持ちたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	4～5の方が診察及び相談を受けられておられます。又、今後も診断や治療を受けられる、体制作りが出来ております。		職員を同席させる事と、利用者の必要とする受信ができるよう、支援していきたい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	自業所には現在看護師が配置されていません。2つの医療機関による定期往診が24時間対応となっています。日常の健康管理や医療管理に活用出来る体制になっています。		早期の採用に努めております。その中で日常の健康管理や医療管理に努めていきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関との連携が出来ており、入院時の対応や早期退院に向けた情報交換や相談が出来ています。入院時の面会を頻回に行うことで、利用者の状態把握や関係者とのよりの確な情報交換に努めています。		医療機関・家族との連携を図りよりいっそうの信頼関係を築き、努めて入院期間を短縮して可能な限り終末ケアまで継続出来るようにしていきたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に説明は行っておりますが、必要時はその都度改めて相談を行っております。		いつでも対応出来るように、本人・家族等やかかりつけ医との話し合いを持ち、本人・家族の要望に対して、不安なく対応できるように職員と意識付けを行っていきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	「グループホームにおけるおける医療の有り方」としてかかりつけ医の協力を得たり、本人・家族への説明行なっています。又、必要があればチームとして取り組んでいきたいと思えます。		重度化や終末期ケアの経験がない職員が多く、理解度や意識は異なります。いつでも対応できるように、管理者を中心に、検討や準備を行い、チームとしての支援体制を確立していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	認知症の方には、環境の変化が最もダメージ的影響が大きいと、いう認識を持って入居時や移住の際に本人・家族へ十分な説明をおこなっています。住み替えの希望がある場合は、関係者と十分な話し合いや情報交換を行いながら、入居や退去時期を検討しています。		住み替えによるダメージを経験しており、今迄以上に、環境の変化が与えるダメージの理解が出来るように、関係者間で十分な花あい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	会話や記録や申し送り等含めて朝礼の場所の移動、整理整頓、職員指導等を実施しています。又、言葉掛けの勉強会も行ないました。	ミーティングや事ある毎に日常の中にプライバシーの保護の必要性を問う時間を作っていきたい
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様に聞くこと、会話の中でその人の性格をよく知って、本人が納得される支援を行なっています。	職員の言葉かけは出来ているが、利用者により意思疎通や表現力も異なるため、個々の能力に合わせた細やかな意思の疎通が図れるように努力していきたい。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いや希望を最優先に取り上げ希望に沿うような暮らしを支援していますが、理解困難な利用者様に対しては、その人らしい生活が出来ているかどうか悩むところです。	利用者様との会話と状態をよく知る努力と気付きで個々のペースを守りながら、希望に沿った援助をしていきたい。
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやおしゃれは、利用者の希望を取り入れながら、(自立に向けた支援をしており、職員の声かけや一部介助により、季節感のある見だしなみを心掛け、又、理容・美容歯、出張理解を利用されています。	家族へは、季節に応じた衣替えを協力して頂きながら、新しい衣類だけではなく、着慣れた衣類の提供でいつでも自分で選んでお洒落が出来る環境でありたい。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物や調理、下膳や食器洗い等と食事への入居者の関わりは多く利用者の生活歴や能力等を考慮しながら、個々の状態に合った作業の提供を行なっており、自分から率先して手伝って頂く場合もあり職員と共に、準備や食事、片付けをしています。	利用者に尋ねて作り方等教えて頂き、共に行動する事を全スタッフが上手に出来る場にしていきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	全員が美味しく食せる味付け又、メニューに嗜好を考え取り入れています。	利用者からの要望を可能な範囲で取り上げられるよう、職員が更に、調理に対して、勉強努力していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご本人に合った支援を行っていますが、徐々に進行が見られ、一人でのトイレの使用が不可な方や排尿コントロールがうまくいかない場合等は状況に応じ対応しています。		自立排泄や自己コントロールが可能なように、食事量とメニュー、水分量を考えています。又、体動かしたりで、薬に頼らない支援が出来ればと思う。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	隔日の入浴が基本ですが、拒否のある方、体調不穏の方、排尿便汚染があらわれる方や又、希望される方等状況に応じ対応をしています。		健康増進と清潔保持のため、必要に応じて気持ちの良い入浴が出来る体制と無理の無い入浴が出来る知識も勉強していきたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者様の状況は把握できていますが、時として安眠が出来ない場合もあり、その時の対応や翌日の体調に変化が出てきます。		一人一人が気持ちよい休息と安眠が取れるように対応のやり方に誠意をもって取り組むようにしていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活に役割を設け、楽しみとなるものを提供して、畑の野菜作りや草取り、買い物等、の外出を行い気晴らしの支援を行っています。		少しでもホームで張りの有る、自分らしい生活をして頂く為に、その人に合った支援をこれからも行っていきます。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の意見を尊重し、金銭の所持等対応しており、必要な時は買い物に出かけその人の支援を行なっている。」		ご本人の状況に応じて、トラブル事なく、所持出来る関係や体制を作っていくたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間行事の中に外出を取り入れ、天気の良い日は屋外にでて、草や木の中を歩き、土にふれる機会も多く行なっています。		閉じこもりを避け、外での活動を増していきたい。特に外の空気や人との会話にふれる機会を増やしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年1回の家族同伴での温泉旅行を行なっています。	感染	安心して出かけられる場所を知り、四季の変化や人に出て、刺激を与えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に説明・相談の上、本人様の気持ちを伝えています。又、必要な時は本人より電話されたり、家族よりの電話の時に知らせています。手紙を書かれる方は現在いらっしゃいません。		本人の気持ちも十分に受け家族の状況も知った上ですすめていきたい。又、保育園生へのハガキも、相談して行っていきたい。
64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来所持のスタッフの笑顔、帰宅時の見送りと居心地良い環境で送って頂く様全員にて努めています。		気持ちのよい挨拶と笑顔が自然に出て、次の来所が気軽にしたいと思われる接遇マナーを図っていきたい。
安全と安心を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	絶対拘束をしないと言うのを基本に考えて実践してもらう説明をおこなっています。		正しい身体拘束をしないという知識の再認識を項目とあけて理解していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には鍵は設けてなく、スタッフ間とおお客様との溝を失くし見守りで行なっています。但し一時的には鍵ではなく棒等を使用してすぐ除いています。		すべての職員が鍵を必要としない介護の認識と対応の仕方をしっかりと、考えていきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	就寝以外はリビングでの生活が主で、見通しも良く玄関からの外出時はセンサーでの音が鳴り、事務所が出入りの際に見届け役となっております。個室へは入る時は、ロック、声掛けでプライバシーを守っています。		常に意識の中にプライバシーをも守り利用者様の数や居場所の確認が備わるようなケアを心がけていきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人一人に合った対応で、必要時はチェック表を作成したり、上司との相談で事務所預かりにしたりして、家族への相談、報告もしておりトラブルになる事なくいっております。		相手の気持ちに添った保管、管理を意識を同じく関わる事を大切にしていきたい
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	その時々に応じた見守りや支援を行い、前もった予測を行う事で、事故防止を図る事を全体ミーティング時、ヒヤリハット提出時又、その時で指導しています。		予防が第1と言うことで何事にも取り組む姿勢をこれからも考えていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルに沿って行動が出来るように、その時々で対応の説明、見学をしホームの中で覚えてもらっていますが、一部を除き知識不足を感じます		応急手当、初期対応の必要性を勉強会や日常の中で、全員に分かってもらうようにしていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の防火訓練を含めて防災会社よりのアドバイスや、消防署よりの協力、指導を受けています。近所の方への協力体制は現在出来ておりません。		今まで通り訓練を実施し、近所の人との協力を得ていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	1ヵ月毎の状況報告書の提出や来所持の会話の中で現状を知って頂く様努めています。		身近な会話が職員全員が家族などと出来、一緒に利用者様の生活を守っていけるようにしたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め気付いた際にははや速やかに情報を共有し対応に結びつけている。	毎日朝礼や、連絡ノートや業務日誌の中で、スタッフ間の共有を行い早めの対応に心がけています。		一人一人に寄り添ったケアを行う事で、変化に早く気付く観察力と対応の仕方をこれからも勉強していきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は主治医の判断、指示の通り各スタッフ行なっております。夜勤のスタッフが、次の日の分を、又、確実に服薬確認しております。		薬に関しての副作用と、本人の動きや様子を見る力をつけていき薬を減らす対応をしていきたい。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	飲食物の工夫や、必要な方への声掛けを行っていますが、排便に対する利用者のこだわりが、今少し理解出来ない点も見える。		排便コントロールの困難、それによって出てくる個人個人の状況に、対応出来る様にしていきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の声掛けや、付き添っての支援は行ってはいますが、自分で出来る方への、確認が完全ではなく、全員が出来ているとはいえない。		自分で出来る方にも正しい支援を行い習慣づけていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態や主治医の指示の元、利用者にあった食事量・水分量を提供しています。		利用者の好みや性格を知った上で上手に栄養や水分が取れるように、働きかけていきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	時期をおって、各棟に資料作成を行い読んでもらう。又、県よりの資料の通知や勉強会等で課題としている。(c型肝炎)		自ら清潔を実践し当たり前の事として、業務の中でとらえていきたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	県よりの通知(ノロウイルス)を知らせました。梅雨時の注意として、目標として掲げる。又、持ち越さない食事作りに気をつけています。		高齢でもあり、生で食べない食事づくり、新鮮な食料の使用をこれからも心掛けていきたい
(2)その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は「たんぼぼの顔」という気持ちで、気軽に安心した出入りを心掛けています。		高台で坂道もありますが、眺めがよく道幅も広くなり徐々に、改善はあり、訪問しやすい場を目指して環境作りをしていきたい
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食道、浴室、トイレ等)は利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	空間もしっかり取れて採光も良い、自然の音はしても不快な騒音はなく、季節感をかんじて頂いています。		ゆったりとした中で寝食を共に楽しく過ごせることが一番であり、あちらこちらに季節感を感じて頂く草花がある対応をしていきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに一人に過ごせるような居場所の工夫をしている。	思い思いのくつろぎ方が出来ています。共用の場の配置の見直し、個室の置物の見直し等、の検討を行い、実施しています		その場の状況で、ソファや椅子の配置や利用者様の居場所を平等な目で見直していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の状況に合わせ希望を聞き、居心地良い居室作りをしています。		本人の意思を尊重し、不安が生じないようにしたい。又、家族との連絡も上手にこれからもしていきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室はポータブルトイレを使用されていたり、パット使用されていると、寝室や衣類に臭いが付く場合もあります。浴室、トイレ、居室、極力開放し風通しに努め又、温度差への配慮もしています。		一人一人の体調に合った対応が可能で気持ちよい換気、空調の配慮に努めたい。
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差を少なく、広いスペースの中で安全に生活をして頂いています。出入口にと、デッキに降りるくらいの段差がある程度になっています。		どこまで安全を考えて、環境作りを行うか悩むところです。現状を生かしスタッフ対応でいきたいと考えます
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の力に合わせて、出来る事はして頂き、自立して頂くように、声掛けをしたり一部介助にて行っています。		一日の流れに合った動きの中で本人の力が出せる場を見つける工夫をしていきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	冬はルビングを主に暖かくなれば野菜作りや草取りの場が多く設けてあり又、食事をベランダにて外の空気にふれ楽しみました。		ベランダの使用を今以上に多目的に使っていきたい。



## サービスの成果に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100			ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、)日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点をきにゆうしてください

自然に囲まれた丘にあり、眺めもよく気持が落ち着く、隣に大工場があり、広場の提供や花見の交流もしており、下方に大きな道路があり民家が並んでいます。四季折々の食事と草花で、心洗われております。(米、味噌、お茶、卵は特に産地直送です)元気な方々が多いので、買い物、定期的な受診で利用者様の気分転換も図っています。また、2ヵ所よりの定期的な往診と医療連携も図れており安心しております。今以上にお客様主体で家族様との協力ご理解をいただく為職員全員のサービス向上に努めていきます。